



大倉喜八郎と喜七郎

■大倉集古館の概要

大倉集古館は明治から大正時代にかけて活躍した実業家・大倉喜八郎(1837~1928)が設立した日本で最初の私立美術館です。喜八郎は明治維新以来、産業の振興、貿易の発展に力を尽くし、育英、慈善事業に多く功績を残しました。また、美術品の海外流出を嘆き、その保護とわが国文化の向上に努め、大正6年(1917)に財団法人大倉集古館を設立し、50余年にわたって蒐集した多数の文化財と土地・建物及び維持資金を寄付しました。

しかし大正12年(1923)の関東大震災により、当初の建物と陳列中の所蔵品を失いました。昭和3(1928)年、伊東忠太博士の設計により、中国古典様式で耐震耐火の陳列館を建築し、災禍を免れた所蔵品を基本として再び開館いたしました。これが現在の大倉集古館の基礎となります。

さらに嫡男喜七郎(1882~1963)がその遺志を継いで、館の維持経営を支援し、自らが多年蒐集した名品、特に近代絵画を多数寄付することで所蔵品の充実を図りました。

所蔵品は日本・東洋各地域の絵画・彫刻・書跡・工芸など広範にわたり、国宝3件・重要文化財13件及び重要美術品44件をはじめとする美術品約2500件を収蔵しています。多くの皆様にお越しいただき、日本・東洋美術の粹にふれる好機となっております。



■ACCESS

東京メトロ 南北線 六本木一丁目駅 改札口(泉ガーデン方面)より5分
日比谷線 神谷町駅4b出口より7分
銀座線・南北線 潟池山王駅13番出口より10分
銀座線 虎ノ門駅3番出口より10分
日比谷線 虎ノ門ヒルズ駅 2020年開通予定

※駐車場はございません。公共交通機関でお越しください。

■開館時間 10:00~17:00 (入館は16:30まで)

■休館日 月曜日(休日の場合は翌平日)、展示替期間、年末年始
※展覧会内容、出品作品、会期、展示替日などが変更になる場合がございます。事前にご確認ください。

■入館料 一般 1,000円(特別展は1,300円)

大学生・高校生 800円(特別展は1,000円)

※学生証をご提示ください。

※展覧会内容によって、料金が変更になる場合がございます。

中学生以下 無料

同会期中のリピーターは200円引き

(前回ご来館のチケットをご持参ください)

20名様以上の団体は100円引き

障がい者手帳をお持ちの方と付き添いの方1名は無料

※The Okura Tokyoとのセット鑑賞券

ランチセット鑑賞券 5,000円/茶菓セット鑑賞券 2,500円

■ミュージアムパスポートのご案内

大倉集古館では、ミュージアムパスポートのメンバーを募集しております。
詳しくはお問合せください。

入会金 5,000円



公益財団法人 大倉文化財団
大倉集古館
OKURA MUSEUM OF ART

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-10-3

Tel: 03-5575-5711

HP: <https://www.shukokan.org/>



大倉集古館 展覧会案内

2020年4月~2021年3月

能装束

「紅白段業平菱菊模様唐織(部分)」江戸時代

18世紀

企画展

彩られた紙

～料紙装飾の世界～

2020年4月4日(土)～5月24日(日)

「彩られた紙」とは、美しく染めた色紙や、下絵を描き金や銀を蒔くなど、華やかに装飾された紙です。また文字を書くために表面を加工した紙もあります。これらの紙には人々の美意識が反映されています。本展では、奈良から江戸時代までのさまざまな料紙装飾に光をあて、託された祈りや夢、美の移り変わりなどを探ります。



重要美術品「後柏原天皇宸翰御懐紙」



重要文化財「東大寺文書屏風」のうち



国宝「古今和歌集序」藤原定実筆

企画展

日本絵画の隠し玉

～大倉コレクションの意外な一面～

2020年6月2日(火)～7月26日(日)

大倉コレクションの日本絵画といえば国宝「隨身庭騎絵巻」であり、また横山大観の「夜桜」を想起する方もいらっしゃるでしょう。ところが、コレクションの中には江戸期を中心として意外な名品や面白い作品が隠されています。本展ではそうした隠し玉的な作品を紹介し、大倉コレクションの幅の広さを知って頂きます。



「遊女と禿団」溪斎英泉筆



「十六羅漢図」のうち
山口雪溪筆

企画展

近代日本画の華

～ローマ開催日本美術展覧会を中心に～

2020年8月1日(土)～9月27日(日)

明治から大正にかけて、横山大観、菱田春草、下村觀山らは、日本美術の新たな道を求め、岡倉天心が結成した日本美術院で研鑽を積みつつ、日本画の革新に取り組みました。師の没後、大観がその遺志を継ぎ、対外的な活動を休止していた美術院を大正3年に再興しました。大観が、パトロンでもあった大倉喜七郎の全面支援を受けて、昭和5年にローマで開催された「日本美術展覧会」は、団長の大観を筆頭とする院展（再興日本美術院）系の画家のみならず、川合玉堂、竹内栖鳳ら官展系の画家たちも含む総勢80名が参加した一大プロジェクトでした。本展では、大観、春草ら日本の近代を彩った画家たちの作品を、ローマ展出品作を中心に展覧いたします。



「山四趣」のうち「春霞」横山大観筆



「蹴合」竹内栖鳳筆

東京経済大学120年と創立者大倉喜八郎

2020年10月3日(土)～10月25日(日)

東京経済大学（東京都国分寺市）の前身、大倉商業学校は、明治・大正期の実業界の雄、大倉喜八郎により、赤坂葵町に創立されました。2020年に創立120周年を迎えることを記念して大倉喜八郎の生涯と、大倉商業学校～大倉高等商業学校～大倉経済専門学校～東京経済大学に至る120年の沿革史を振り返る展示会を、創立の地に隣接する大倉集古館で開催いたします。



大倉喜八郎 (1900年頃)



開校まもない頃の大倉商業学校校舎



現在の東京経済大学キャンパス

特別展

海を渡った古伊万里

～ウィーン、ロースドルフ城の悲劇～

11月3日(火)～2021年1月24日(日)

オーストリア、ウィーン近郊にたたずむロースドルフ城には、古伊万里を中心とした陶磁コレクションが多数所蔵され、かつてそれらは城内を美しく飾っていました。ところが、第二次世界大戦後の悲劇により、陶磁コレクションの大半は粉々に破壊されてしまったのです。本展では、佐賀県立九州陶磁文化館所蔵の古伊万里の名品とともに、ロースドルフ城の陶磁コレクションと破壊された陶片を展覧し、さらには、日本の技術により修復した作品などを初公開いたします。



ロースドルフ城



城内展示風景

企画展

因州×備前 池田家の能面・能装束

2021年2月2日(火)～3月28日(日)

能楽は、室町時代初期、猿楽（さるがく）を原型として大成され、今なお演じられている日本の貴重な伝統芸能です。近世以降は幕府や大名の保護を受け、武家の式楽として発展しました。当館では、因州（鳥取藩）池田家伝来の能面と、備前（岡山藩）池田家伝来の能装束を多数所蔵しています。これらの展覧を通して、近世大名家による能愛好の一様相をご紹介いたします。我が国に花開いた伝統の美と幽玄の世界をお楽しんでください。



能面「万媚」
出自半藏朱漆書



能装束「紅白段業平菱菊模様唐織」



能装束「茶地入子菱三盛木瓜紋厚板」
(子方)